***隠された行動・コバート・アクション　マガジン*１９７８年以来、隠された行動の暴露を継続**

**バイデン政権は日本に再軍備を強制し、第二次世界大戦後につくられた　　　　日本の平和憲法を踏みにじっている**

**主要な的は極めて挑発的な中国敵視論だが、アメリカ国内では反対意見はみうけられない。**

去る１２月１６日、日本の岸田文雄首相は新防衛戦略を発表し、２０２７年までに日本の防衛費を二倍化すると発表した。さらに、軍事力の拡大にともない攻撃用武器の確保、軍指揮系統の再編に合意した。

１２月２３日には、予算案が岸田内閣により承認された。

このような日本の軍事拡大にたいし、国際的な警鐘が鳴らされるべきである。アメリカ帝国主義の強力な圧力に基づき、このような日本の軍事拡大がおきているのだ。中国の封じ込めをめざした「アジアへの方向転換」の次の段階として、アジア太平洋地域でのアメリカの支配を再主張するものである。

アメリカの際限ない戦争に反対する運動は、不吉な脅威に対して一般の市民らの注意を喚起し、周到な物的準備をして臨まなければならない。

今後５年間の軍事支出倍加計画で日本の防衛予算は３１５０億ドル/４兆１５８０億円＊　となり、日本は米国、中国に次ぐ世界第三位の軍事大国になる。防衛費はGDPの２％になるが、それはアメリカがNATO諸国に求めているものと同様である。日本の経済は、世界第三位である。

日本政府は、ロッキード・マーチン社のトマホークミサイル５００、陸空共用スタンドオフ　ミサイル（JASSM）、海上艦船、航空戦闘機等を買収し、サイバー戦闘能力を高め、日本独自の超音速誘導ミサイル、先端式ジェット戦闘機等の武器の製造を計画している。計画は、単なるミサイル防衛依拠から”敵への反撃能力の抱合へと移行している。

平和と連帯をこめて、

クリス・エイジ

コバート・アクション・マガジン　編集長